



# SUZUKI FLUTE **50<sup>th</sup>** Anniversary Book

スズキ・フルート 50周年記念

公益社団法人才能教育研究会  
フルート科委員会



## ご挨拶



フルート科 50周年に寄せて  
公益社団法人才能教育研究会会長 早野龍五

スズキ・メソッドフルート科が、1971年の創立以来50年という節目の年を迎えました。まことにおめでとうございます。

1971年といえば、私は19歳。東京大学の2年生として物理学科への進学を決意した年でした。松本を離れ、才能教育研究会も退会しておりましたので、お恥ずかしいことに、当時はスズキにフルート科が誕生したということを知りませんでした。私がスズキのフルートを知ったのは、その10数年後のことです。父の古い友人で、当時、才能教育研究会東京事務所におられた水野明夫さんが拙宅に遊びに来られた折に、我が家に娘（当時5歳）がいると知って、スズキのフルートの宣伝をなされたのです。「ヴァイオリンもいいけど、フルートは持ち運びが楽だし、女の子には向いているかもしれない。お茶の水（当時は主婦の友支部）に、高橋利夫先生のお弟子さんの谷奥浩先生がおられるので、ぜひいらっしゃい」ということでした。

水野さんは、1950年代に、松本で私の父に鈴木鎮一先生の素晴らしさを力説し、私が松本音楽院に通うきっかけを作ってくださいました。早野家、親子二代にわたって水野さんのお世話になったのです。

今回、記念誌に寄稿させていただくにあたり、古いアルバムを見ておりましたら、1989年に開催された第16回主婦の友支部演奏会で、U字管フルートを手に日本教育会館の舞台上に立つ娘（当時7歳）の写真を発見しました。フルート科の生徒さんの数は総勢13人でした。翌年の第17回の演奏会の写真では、生徒さんが17人に増えていて、当時の教室の熱気を感じます。娘は、その後、谷奥先生が北海道に戻られる直前まで、主婦の友支部でお世話になりました。

私とスズキのフルートには、公私ともに浅からぬ縁があることをご紹介させていただきました。

100周年に向けて、スズキのフルート科がさらなる発展を続けますように、お祈りいたします。



フルート科の過去、現在、未来—創設50周年に寄せて  
フルート科特別講師 宮前文明

スズキ・メソッドフルート科が、50周年を迎えたことを大変嬉しく思います。

創始者の高橋利夫先生が、マルセル・モイーズのレコードに感動してフルートを始め、鈴木鎮一先生に出会い、米国でモイーズ先生を探し当てて師事され、その成果を鈴木先生監修のもと鈴木・高橋フルート指導曲集として出版、スズキ・フルートスクールが始まりました。

これら運命的と言える出会いの数々に恵まれたのは偶然ではなく、高橋先生ご自身の類稀なる努力と才覚、そして洞察力の賜物と言えるでしょう。

その後、米国でこの指導法が受け入れられ、各国のフルートコンベンションでたびたび紹介され、今や全世界で指導者、指導者養成資格者が数多くの生徒を教え、プロ奏者も続々と輩出しているのは周知の通りです。



宮前文明先生のグループレッスン  
(2018年夏期学校)

また、U字管の幼児用フルートが世界中で使われ、管楽器では一般的でなかった暗譜演奏も増え、模倣の真の意義と価値を理解する管楽器指導者も増えてきました。

50年の節目に当たり、スズキ・フルートがこの“伝統”を築いたことに自信と誇りを持ち、この先へ向けて前進したいと思います。

スポーツが科学とともに相互発展してきたように、科学を含むあらゆる分野を応用しながら芸術とその指導法を多角的に発展させたいと意を強くしております。これは多くの方々のご支援とご協力があって為せることです。

皆様、これまで以上に、これからのスズキ・フルートをどうぞよろしくお願いいたします！



Suzuki Association of the Greater Washington Area (SAGWA) に講師として招聘された高橋利夫先生(左)と宮前文明先生

## スペシャル対談

# 「スズキ・フルートを語る」

高橋利夫 (スズキ・フルート創始者)

宮前文明 (フルート科特別講師)

鈴木鎮一先生の依頼を受けて、高橋利夫先生が3年余りの年月をかけて編纂されたスズキ・メソードのフルート指導曲集が、1971年に出版されてから今年ちょうど50年です。それを記念して、これまでの歴史の数々を、多くの秘話も含めて、高橋利夫先生と特別講師の宮前文明先生とで縦横無尽に語っていただきました。コロナ禍のため、対談は、それぞれが居住しておられる長野県松本市と米国ピッツバーグ間の国際電話により、8月16日、9月19日、9月26日の3回実施。思い出話に花を咲かせながらの対談となりました。

## 鈴木鎮一先生の教え

宮前:高橋先生が20代の頃、鈴木鎮一先生に「音楽表現法」を学ばれたことをお聞きしていますが、その頃のことを、まずはお聞きしたいのですが。

高橋:僕がフルートを始めたのは、まったく偶然なことで、東京の高田馬場の雑踏の中を歩いていた時に聴こえてきたフルートの音に大変感動したのがきっかけでした。小さな楽器店のスピーカーから流れてきた楽の音、それはモイーズの吹く「ハンガリア田園幻想曲」だったのです。19歳の時でした。

とても感動して、なんとしてでもフルートを吹けるようになりたい一心で、当時、楽譜もなく、ただレコードを毎日繰り返し聴いて1年ほどで吹けるようになりました。後に細かい音符、32分音符や64分音符ばかりの難しい楽譜を見てびっくりしたのですが、奇しくもスズキ・メソードの耳から学ぶ方法でフルートを始めたのです。

その後、東京藝術大学の学生たちで編成されたアンサンブル・ソナーレに誘われて、一緒に演奏活動をして各地をまわり、松本でも演奏会を開催しました。そのうちに「自分の演奏はこれで良いのだろうか」と疑問が湧いてきたのです。

本当の音楽を教えてくれる人にレッスンを受けて勉強したいと思いました。そこで著名な鈴木鎮一先生に、楽器は違うけれど教えていただきたいと考えました。僕の叔父でピアニストの川上良武が鈴木先生と旧知の仲だったので、叔父に紹介してもらい、鈴木先生のご自宅に伺ったのです。僕が25歳の時のことです。

宮前:鈴木先生からはどのようなレッスンを受けられたのですか？音の問題で貴重なご指摘があったと聞いています。

高橋:妻のピアノ伴奏で二人で毎週2時間のレッスンを受けていました。バッハの「フルートソナタ第2番」やグルックなどの曲です。一番勉強になったのは、音楽的な音程についてでした。

フルートは平均律で調整されていますから、ヴァイオリンの鈴木先生には耐えられないようでした。毎回、その音をもっと高く、低く、というとても細かい要求があって、「フルートは平均律なので、それは無理です」と反論

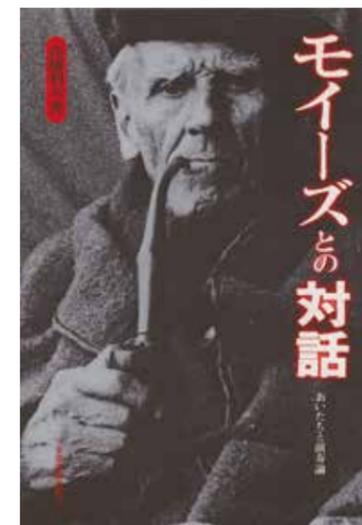


1964年秋、鈴木先生の指揮で独奏

したところ、鈴木先生はニッコリ笑って「やっでごらんなさい。できますよ」とおっしゃったのを思い出します。いろいろやってみたら、本当にできるようになり、先生には感謝、脱帽です。鈴木先生からは「音程」「音楽的拍子」「歌い方」を学びました。

それから1年半ほどして、僕の出す音を鈴木先生は気に入られなくなったのです。実はその頃、大人気の外国人フルーティストの音に傾倒してしていた時期があったのです。「高橋さん、ぼちぼちレッスンは終わりにしましょうか?」と言われて、「あれ?どうしたんだろう?」と困惑してしまいました。言われた翌週のレッスンで、フルートのレコードを5-6枚、それぞれ違う演奏者のレコードを持参して、聴いていただいたのです。鈴木先生はどれも良い反応を示さなかったのですが、モイーズのドーナツ盤のレコード、ドップラーの「ハンガリア田園幻想曲」をかけたところ、Aの音が鳴って数秒するとすぐに机を叩いて「高橋さん、これです!この音です!」とおっしゃいました。

鈴木先生はモイーズをご存じだったので、以前に聴かれたことがあって、レコードを聴いて思い出されたのですね。後年、私が執筆した「モイーズとの対話」(全音楽譜出版社・1978年)の出版に際して、鈴木先生が寄稿してくださった



著書「モイーズとの対話」

文章があります。

「その昔、私がクライスラーやカザルスのレコードをきいて夢中になっていた頃、はじめてモイーズのフルートの演奏のレコードをききました。その音の美しさ、その音楽の内容の深い表現力、実にりっぱな演奏です。そのフルートの音のやわらかく、しかも力強いこと。また音楽のその性格表現における音色の変化など、カザルスのそれのごとく、まさに同じその高さにくraisする偉大なる音楽家、芸術家であることを感じたことでした。」（「モイーズとの対話」改訂版 19 ページ「モイーズ先生とその芸術」）

自分は横道にそれていたなど大いに反省をして、それから曲はやめて、音だけのレッスンをしていただき、半年ほどしてから、また曲を吹き始めたのです。

## モイーズのレッスンを受けたい

**宮前：**鈴木先生が以前からモイーズをご存じで、その芸術性の高さを知っていらしたことは重要なことですね。その後、高橋先生がモイーズを探しに渡米されたわけですが、それには鈴木先生の言葉がきっかけだったそうですね？

**高橋：**モイーズトーンに戻って、また曲を聴いていただけるようになり、1年半ほど経った頃、鈴木先生が「高橋さん、モイーズ先生は生きていらっしゃいますかねえ？聴いていただける機会があるといいですね」とおっしゃったのです。「いや～わからないですね。昔の人ですから、もう生きていらっしゃらないのではないですか？」と答えました。自分は（モイーズが存命であることは）ありえないこととっていたのです。しかし、だんだんと、モイーズはどこかに生きているのではないかという気がしてきました。まったくの直感でしたが、アメリカではないか。ヨーロッパからのインフォメーションはないし、大戦の後、有名な演奏家が何人もヨーロッパからアメリカに渡っていたこともあった。その頃の日本には、モイーズに関しての情報は何もなかったのです。しかし、渡米する準備は始めました。

家内のサポートがあったことも大変大きかったですね。「探しにいったらどう？ 後のことは心配なくてよいか



松本駅で鈴木鎮一をはじめ、新聞報道を見た多くの観衆に見送られる高橋利夫（1965年秋）

ら」と言ってくれたのです。そこで多くの弟子と家族を残して、単身アメリカにモイーズ先生を探しに行くことにしたのです。1965年の秋でした。

## 渡米半年後、モイーズを探し当てる

**宮前：**海外への渡航がまだ珍しかった時代ですから、大変なことでしたね。想像できないことです。

**高橋：**羽田からホノルル経由でロサンゼルス空港に着いたのが夜で、真っ暗な中、地獄の底に落ちていくような気がしましたね。右も左も判らなくて「えらいところに来てしまった」と思いました。

ロサンゼルスでは苦労しました。それでもね、良い人たちにめぐり会い、良い出会いに恵まれたと思います。教会でボランティアで演奏をしていたら、親切な老夫人から声をかけられて、その夫人のご好意で3年間無償で住居を提供していただけることになりました。また、あるパーティで演奏をしたら演奏活動をやってみないかと言われて、いろいろなところで演奏をしました。

**宮前：**渡米されて半年探し続けられて、やっとモイーズ先生にお会いできたそうですね？

**高橋：**僕は日本の曲も演奏していて、尺八の曲を研究して吹いていました。ちょうどその頃、<sup>こと</sup>箏の正派生田流の唯是震一氏がロックフェラー財団に招聘されて、コロンビア大学の東洋音楽科の教授をしていました。唯是先生とは松本の<sup>わこまさしず</sup>輪湖雅祁先生との繋がりで共演したことがあったのですが、僕がロサンゼルスにいたら、「演奏会があるのでフルートを吹いてくれないか」と出演依頼の連絡が来たのです。そこでニューヨークへ行きました。

唯是先生は生田流箏の奏者であり、作曲家です。夫人の靖子先生と3人で、先生の作品の演奏をしてロックフェラービルのスタジオでレコーディングも行ないました。



唯是震一（箏）と高橋利夫（フルート）のLPレコード

ボストンなどアメリカ東部で演奏しましたね。

そしてフィラデルフィアに行った時に、この機会にと思って、フィラデルフィア管弦楽団の首席フルート奏者であったウィリアム・キンケイド先生を訪ね、アメリカの曲、グリフィスの「ポエム」などのレッスンをさせていただきました。

レッスンの後のティータイムで話をしていたら、キンケイド先生からマールボロ音楽祭の話が出ましてね。「マールボロ音楽祭のファウンダーは、アドルフ・ブッシュ、ルドルフ・ゼルキン、それにマルセル・モイーズ…」とおっしゃったのです。びっくりして「マールボロはどこにありますか？」と聞いて、慌ててホテルにとって返し、電話でオペレーターを呼び出し、マールボロにマルセル・モイーズという名前がないか調べてもらったのです。するとマールボロにはないが、近くのブラトルボロにモイーズの名前があると言って、教えてくれました。

はやる気持ちで、すぐに電話をしたところ、奥様が出られて、「マルセルは胆石の手術で今入院中です。でも、あなたラッキーですよ。明日退院してくるから、明日電話をかけたら？」とおっしゃってくれました。

そして次の日に電話をすると、「アロー」とモイーズその人が直接電話口に出てきました。「私は日本の笛吹きです。先生の音に取り憑かれて太平洋を越え、アメリカ大陸を越えて、今フィラデルフィアにおります。推薦状も紹介状もありませんが、先生と勉強させてもらえませんか？」と言いました。するとモイーズ先生は、すぐに「Why not!」（何も問題はないよ）と言ってくださったのです。

そこで翌日、ニューヨークから汽車に乗ってニューヘ

ブン、スプリング・フィールドに行き、そこでバスに乗り継いで、バーモント州ブラトルボロに向かいました。小高い丘の木立の中に「MOYSE」と書いてある郵便受けがあつて、山小屋風の家があった！ 嬉しかったですね！ 6カ月探し続けていたのですから。



赤い地点がブラトルボロ

モイーズ先生は病み上がりで痩せておられ、目だけ<sup>がんこうけいけい</sup>眼光炯炯としていらしたですね。先生も感動しておられる様子でした。<sup>はるばる</sup>遙々日本から訪ねて来たのは私が最初でした。先生は私を遠来の客として迎えてくださり、初対面でしたがすっかり意気投合してしまいました。この信頼関係が後の先生の日本訪問につながったと思います。



1966年 モイーズの自宅にて

その後、先生の体調の回復を待って、東部でのコンサートの折やマールボロ音楽祭の前後には必ずお寄りし、重要なフルートのレパトリーをできるだけ多く、集中的に聴いていただきました。

また、先生のソノリテの練習の折、アンブシュアのコントロールの様子を何度も間近でつぶさに観察させてくださり、その様子は、いまだに目に焼き付いています。これは先生の遺訓として後世に残したいですね。

2年半後、帰国する時には、モイーズ先生の予備の楽器や、一生の写真集、先生が描かれた絵画、それと未発表の自筆の楽譜類や多くの伝え残したい資料をいただきました。モイーズ先生は、日本に「フルートのフレンチ

スクールを伝えたい」という強い思いがありましたね。

## モイーズを鈴木先生が日本へ招聘

宮前：1968年秋に帰国されて、高橋先生は、帰国記念リサイタルを開かれたのですね。その演奏をお聴きになられた鈴木先生が高橋先生にフルートの指導曲集の執筆を依頼されたわけですが、そのことは後ほど詳しくお聞きすることにしまして、モイーズ先生が来日された当時のことをお聞きしたいと思います。

モイーズ先生は、1973年(84歳)、2回目は1977年(88歳)で来日されました。ご高齢なのによく日本にまで来ていただきました。日本のフルート界にとっても大変センセーショナルなことで、日本中の笛吹きたちが集まったそうですね？

高橋：本当によく日本にまで来てくださったと思います。最愛の奥様を1971年に亡くされ、落胆の極みにあったモイーズ先生。先生はご自身が学ばれたポール・タファネルやフィリップ・ゴーベールの教えを実によく記憶されていて、そしてその伝統を次世代へと伝えたいという気持ちを大変強く持っていらしたですね。

神のような存在の作曲家に忠実であること、音楽表現のできる音が大事であること、そのことを日本にも伝えたいという気持ちを強く持っていらした。そのモイーズ先生の来日希望を鈴木先生にお話ししたところ、「それは



ユーモアのセンスは超一流だったモイーズ



歓迎コンサートで子どもたちに囲まれるモイーズと鈴木鎮一

素晴らしい。ぜひ実現しましょう。これはあなたと私のやるべき事業です」と即座に決断され、モイーズ先生を日本に招聘することが決まったのです。

鈴木先生は遙々松本にいらしたモイーズ先生を子どもたちの演奏で歓迎されました。その時の写真を見ますと、初対面で和やかに歓談されています。直観的に鈴木先生とモイーズ先生は同じ次元の人として共鳴しあったのではないかと思いますね。

フルートの神、モイーズが来日するというで日本フルート協会とも協力して準備を進め、モイーズ講習会は松本、東京、神戸の3カ所で開催し、延べ5,000人にのぼるフルート関係者や聴講生が参加しました。スズキ・メソードのヴァイオリンやチェロの多くの指導者や音楽院の研究生たちもアンサンブルで受講し、「モイーズ先生米寿祝特別演奏会」でも演奏をしました。

素晴らしいレッスンでしたね。大きな感動がすべての人々に湧き上がりました。それは大先生の愛と情熱のほとばしりでした。あの時の素晴らしい笑顔思い出すと、思わず涙がこみ上げてきます。

## フルート指導曲集の編纂

宮前：私はモイーズ先生が再来日された1977年の時に演奏を聴いていただき、とても喜んでいただき、その後もレッスンを受ける機会に恵まれました。

話は前後しますが、モイーズ先生が来日される前、

1971年に高橋先生が編纂されたスズキ・フルートスクールの指導曲集が出版されて、スズキ・メソードにフルート科が誕生しましたが、それは鈴木先生が高橋先生の帰国記念リサイタルをお聴きになったことがきっかけだったそうですね。

高橋：帰国した2カ月

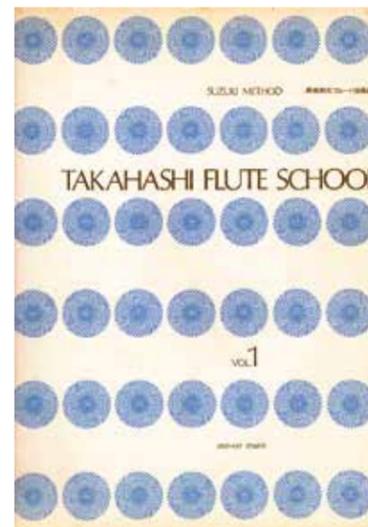
後にリサイタルを行ない、それを聴きに来てくださった鈴木先生が、「高橋さん、フルートの指導曲集を作ってくださいませんか？」と言われたのです。当時、僕は30歳、若かった僕にはとても無理と思い、すぐにお断りしましたが、「私が編纂する上で大事なことを伝授しますから大丈夫です」とのことで、作るようになりました。大変でしたね。何度も曲順を変えたり、生徒に試したりして、とても苦労しました。初版の1、2、3巻が、鈴木先生のOKが出て、出版にこぎつけるまで3年近くかかりました。

鈴木先生から伝授された大事なことは、①数曲同じレベルの曲を3段階ぐらいで並べること、それぞれのレベルの最初の曲が大事。②子どもが長くやっても飽きない曲。必然的にバッハが多くなりました。③技術的な要素や目標を欲張らず、シンプルに。④子どもが何回でも喜んで聴ける演奏のレコード、などでした。

## 9歳の宮前文明君

宮前：私がフルートを始めたのは小学3年の1月、9歳4カ月でした。「毎日レコードを聴くように」と言われたから、毎日よく聴いて、よく練習をしました。1、2巻のレコードは高橋先生の情緒を刺激されるような演奏でした。それに目の前で吹いてくださるのでインパクトが大きかったです。3月には前期初等科卒業曲、ヘンデルの「ブーレ」を録音提出し、4月に2巻が終わりました。

3巻でモイーズ先生のレコードを聴いた途端にスイッチが入ってしまいました。「感動」という言葉では表せな



タイトルがTAKAHASHIだった初版

い、何か閃きのような感じでしたね。「楽しい」を超越して、次から次へと曲をマスターしました。まさにスイッチが入ったのです。

高橋：3巻の「ユーモレスク」をレッスンしたら、「次もやってある、次もやってある」と言って、とうとう終わりまで暗譜で完璧に吹いてしまいました。1回のレッスンで3巻全曲を吹いてしまったのだから驚きましたね。その年の「ブーレ」と夏期学校での演奏(ビゼーの「メヌエット」やグルックの「精霊の踊り)を聴かれて、鈴木先生が海外演奏旅行(テンチルドレン)のメンバーに選んでくださいました。鈴木先生の直感力はすごいですね。何かを感じ取ってくださったのですね。

宮前：翌年、1977年の夏には7巻のドブラーの「ハンガリア田園幻想曲」をハワイの国際大会で演奏しました。

高橋：それからまもなくモーツァルトのD dur、G durの協奏曲も卒業して、実に2年弱でスズキ・フルートのカリキュラムをすべて終わってしまいましたね。宮前君の演奏は荒削りながら、勢いがあって生命力に溢れていました。音楽的なリズムも良かった。

11月にモイーズ先生が再来日されて、フルート講習会では最年少の11歳で受講しました。モイーズ先生がとても喜んで、素晴らしいレッスンをしてくださいましたね。



1977年 モイーズのレッスンを受ける宮前少年11歳

モイーズ先生がお元気なうちに、できるだけレッスンを受けさせてあげたいと思って、1978年、1979年と続けて一緒にアメリカまで行きました。モイーズ先生は、なんとしてでも伝えたいと火の出るような激しさでレベルの高い、内容の深いレッスンをされましたね。

宮前：モイーズ先生のレッスンはすべてが貴重な学習の場でしたので、とにかく集中力を切らさないように努力

しました。1979年ホノルルでのマスタークラスや個人レッスンではモイーズ先生の真髄のほんの一端ではありますが、そのようなものに触れることができたかもしれないと思っています。

イベールのフルート協奏曲の第2楽章では、冒頭でつかまりました。神がかったような神聖で純粋な音質を求められ、何回も何回もやり直しをさせられました。その純粋でしなやかな音質というものを私はフルート演奏において、いつも心に追い求め、表現したいと思っています。

レッスンの中で突然、アンデルセンの「24の練習曲」Op.15を全曲やってみなさいと言われた時には、びっくりしました



高い次元のレッスンをモイーズから受ける宮前文明くん

が、幸いなことに、すべて高橋先生のレッスンを受けていましたので、全曲対応でき、フルートのショパンとも呼ばれるアンデルセンの音楽的な深みにまで触れることができた貴重な体験だったのです。高橋先生には、このような機会を作っていただきましてありがとうございました。

## 世界へ広がるスズキ・フルートスクール

宮前：1964年から毎年、テンチルドレンの派遣ツアーが行なわれ、『スズキ・インパクト』と言われて、スズキ・メソッドが全米を始め、全世界に広がって行きました。私も76年（前出）・78年と計2回参加し、貴重な演奏旅行体験でした。

フルートは高橋先生が1978年ウィスコンシン大学での全米指導者研究大会に招かれて、スズキ・フルートスクールのレクチャーを行なわれたのが最初でした。私はリサイタルで演奏しました。

高橋：その時のプログラムを見ると、僕がライディアン・トリオとモーツァルトの「フルート四重奏曲」D durを演奏し、翌日は宮前君のリサイタルでした。ウェッツガーの「小川のほとり」、ライヒェルトの「ファンタジー・メランコリーク」、ユーの「ファンタジー」、ドップラーの「ハ



1981年、アメリカでのワークショップ

ンガリア田園幻想曲」、ジュナンの「ナポリ民謡と変奏」、よく吹きましたね。それに伴奏のリンダ・ペリー先生も見事だったですね。

宮前：（先生のピアノは）非常に素晴らしくて、私も波に乗って思いきって吹くことができました。1978、1980、1981年と計3回招聘されて、先生と同行しました。幸い高い評価をいただきました。アメリカにスズキ・フルートが広がった、そのきっかけを作れたし、多くの方々が興味を持ってくださいました。

高橋：あの時はセンセーショナルだったからね、みんな興味を持ってくれた。優秀なメンバーが集まってくれました。さもないとプロの人たちはついて来てくれないからね、そういう人たちが来てくださって良かったです。

宮前：高橋先生がTeacher Trainingのセッションをアメリカで精力的に続けられて、フルートの先生がたくさん育ったのは重要なことでした。

高橋：アメリカでまず広まって、ヨーロッパ、オセアニア、そしてアジアは台湾、韓国、タイのバンコクにも行きました。

NFA (National Flute Association) のコンベンションにも招かれて、レクチャーと宮前君の演奏を行ないましたね。1981年のデトロイトが最初でした。私は Young



世界に根づいていったスズキ・フルート

Artist Competition で、審査員をやりました。

この時のコンベンションにはウィリアム・ベネット、ジェフリー・ギルバート、ロバート・エイトケン、ジュリアス・ベーカー、世界の名だたるフルーティストが来ていました。ベネットとエイトケンは後に松本まで来てくれましたね。その次が1983年のサンディエゴで、歌い方の勉強にモイーズの教材を使ってオペラクラスをやりました。大きな反響がありました。

宮前：僕はサンディエゴには行っていませんね。高校1年まで先生のレッスンを受けていて、その後は受験勉強に入っていました。

高橋：医学部に行くのはいつ頃から考えたのですか？

宮前：高2か高3の時に、医学の道でやりたいことがあるなど。横浜市立大学医学部に進んで医師免許取得後、すぐに神経科学・薬理学の分野で研究を開始し、中枢性血圧制御機構の研究でドクター（論文博士）も取得。研究者をしながら、フルートの演奏活動も続けていました。

現在は、才能教育研究会のフルート科特別講師となり、ピッツバーグ大学医療センターで研究員をしつつ、フルート演奏家としての活動を継続しています。スズキ・フルートスクールで子どもたちや次世代の指導者を育てることに情熱を注ぎ、発展させていきたいと願っています。



フルートの音を遠くへ飛ばそう～

## 未来へとつなぐスズキ・フルート

宮前：スズキ・メソッドはとてもシンプルで正しい指導法です。正しい指導方法で繰り返せば、上手くなる。繰り返して練習することを厭わない人だったら確実に上手くなる。そういう人がスズキ以外でも世界にいくらかいるようになりました。とても進歩してきています。教



東日本大震災復興支援チャリティーコンサート東京2012（サントリーホール）高橋先生の合図により演奏

えるツールとしては、これからますます世界中に広がるだろうと思います。

高橋：ただし、鈴木先生が伝えてくださったスズキ・メソッドの真髄とか理念をしっかりと掴んでいないと、違うものになってしまうですね。カザルス先生が、演奏に関して「どんな素晴らしい音やテクニクを持っていてもそれだけでは不十分だ、その表現に breath resonance life motion がないと真の価値はない」と言っています。和訳すると「<sup>きいんせいどう</sup>氣韻生動」。一言で言えば「本物」、本物を感じ取って、感動できる感度を身につけ、表現することです。

宮前：それが音楽的センスですね。本当に良いものが良い…ということですね。言葉では言えない、魂を揺さぶってくる芸術とは、なんなのかということですね。

高橋：カザルス先生がおっしゃったのは「名歌手が歌うように演奏する」ということですね。カザルスもクライスラーもモイーズも名歌手たちとオブリガート奏者として共演しながら、歌い方を学んでいます。そういう本物の音楽家の演奏をたくさん聴くことです。そして実際に自分で演奏してみるとわかりますから、そのためにスズキでは「才能教育課程（モーツァルト：協奏曲ニ長調）までは卒業しましょう」と言っているわけです。

本物がわかる、音楽的にレベルの高いアマチュアでもある市民を世界中にたくさん育てることによって、世界の平和につなげようという鈴木先生の理念は、孔子の<sup>れいがく</sup>礼楽思想（註）にも通じる普遍的なものです。

スズキ・フルートスクールが50年の間に少しでもこの大事な運動に貢献できていたら、創始者の一人として、この上もない喜びです。

（註）孔子「礼は社会の秩序であり、楽は人心を和らげ、民心を良くし、それ故政に通じ、治平の道につながる」（礼記楽記編）



1963年頃の髙橋利夫。ピアノは祥子夫人

## 1963~1965 フルーティスト髙橋利夫、鈴木鎮一に音楽表現法を学ぶ

19歳より独学でフルートを始め、ソリストとして活躍していたフルーティスト髙橋利夫は、郷里の松本で鈴木鎮一のもとを訪れ、真の音楽を学びたいと教えを受けた。

## 1965 髙橋利夫、渡米する

鈴木鎮一から「モイーズ先生は生きていらっしゃいますかね」と尋ねられ、それをきっかけに髙橋利夫は、フルートの神様と言われていたマルセル・モイーズに教えを受けることを決意。詳しい情報がない中、アメリカに照準を定めた。

## 1966 モイーズを探し当てる

渡米半年後、ヴァーモント州ブラトルボロにマルセル・モイーズを探し当て、初対面から意気投合し、その後長く薫陶を受ける。この信頼関係が、後にモイーズ来日を実現させることになる。



ついに探し当てたモイーズと

## 1968 帰国記念リサイタル

10月23日、松本市民会館で帰国リサイタルを開催。

## 1968 鈴木先生よりフルート指導曲集の編纂を依頼される

リサイタルを聴いた鈴木鎮一から、スズキ・メソッドのフルート指導曲集を執筆するよう髙橋利夫に依頼があった。突然の話に驚いて「とても無理です」と断ったところ、「大丈夫です。指導曲集を作る上で大事なことは私が教えますから」とのこと、指導曲集の執筆にとりかかる。

## 1971 スズキ・フルート指導曲集全3巻を出版 フルート科正式に創設

3年近い時間と試行錯誤を重ね、第1巻～3巻のフルート指導曲集がまとまる。その原稿を見るとすぐに、鈴木鎮一が自ら全音楽譜出版社に電話。ほどなく全音楽譜出版社から初版が出版された。

**これによりフルート科が正式に創設された。**第1巻と第2巻は髙橋自身の演奏、第3巻はマルセル・モイーズの演奏を音源としたレコードが作成された。時を同じくして、フルート教室が、松本から長野、東京、名古屋、京都へと広がる。

## 1972 フルート科が初めて卒業生を出し、全国大会に出演

3月26日、フルート科で初の卒業生を出す。日本武道館で行なわれた第18回全国大会に初めて参加した。プログラムの表紙にも、フルートの文字が加わった。

## 1973 マルセル・モイーズ初来日

才能教育研究会の招聘によるマルセル・モイーズのフルート講習会を、日本フルート協会との協力で松本、東京、神戸で開催。全国から多くの受講生の応募があり、フルート演奏家、音楽大学関係者など会場は連日満員の聴講生で埋まった。モイーズ先生の愛と情熱に溢れた熱心な指導は、妥協を許さない厳しいものであり、しかし時にはユーモアに溢れ、会場を沸かせた。

## 1974 全国指導者研究大会にフルート科が初めて参加

国内外の指導者が一堂に会し、奏法や指導法の研究を行なう全国指導者研究会に、この年からフルート科が参加。会場は宮城県蔵王ハイイツ。研究会で得られた様々なノウハウや考え方は全国の教室に持ち帰られ、子どもたちの指導に生かされる。

## 1977 7月 第2回ハワイ国際指導者研究会（現在の世界大会）

7月27日にホノルルのハワイアン・ヒルトン・ビレッジのコーラル・ボールルームで開会式が行なわれた。日本、アメリカを中心に、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、ヨーロッパの国々

から指導者が集まり、総勢636名に。前年の1976年1月、9歳4ヵ月で髙橋クラスに入会した宮前文明少年は、驚異的な速さと吸収力でスズキ・フルート指導曲集の第1巻から第10巻の全課程を1年半ほどで終了。ハワイでのコンサートにも出演し、聴衆を魅了した。

## 1977 11月 マルセル・モイーズ 再来日

モイーズからの「もう一度できれば松本を訪れたい」とのリクエストに答える形で、11月28日から松本で6日間の講習会を開催、東京では「モイーズ先生米寿祝賀コンサート」が開催された。

## 1978 髙橋利夫著「モイーズとの対話」を出版

髙橋が、ブラトルボロのモイーズの自宅で3年近く教えを受けたレッスンはいつも3～4時間にもなり、その半分はベルノー酒を味わいながら有意義な対話で過ごすのが常だった。髙橋の問いかけに、モイーズはいつも真摯に多くのエピソードを交えて語った。その時の会話を忠実に再現してまとめたのが「モイーズとの対話」（全音楽譜出版社）。2005年の改訂版では、第三部 巨匠マルセル・モイーズ来日の思い出が加筆されている。

## 1978 8月 全米指導者研究会でフルート科紹介

髙橋がアメリカ、ウィスコンシン大学でのスズキ夏期研究会に招かれ、初めてスズキ・フルートメソッドを紹介。以来、毎年招かれ、アメリカ（SAA）、ヨーロッパ（ESA）、オーストラリア（PPSA）、韓国、台湾などで指導者養成セミナーを開く。これにより、スズキ・フルートメソッドは飛躍的に海外に広まった。

## 1983 7月 第6回世界大会が松本で開催される

1975年ホノルルで第1回国際指導者研究大会（現在の世界大会）が開催されてから、ホノルル、サンフランシスコ、ミュンヘン、マサチューセッツ、そして第6回を初めて日本の松本で開催した。海外から900名の参加者があり、日本の600名と合わせて盛大な世界大会となった。

## 1984 マルセル・モイーズ逝去

11月1日、ブラトルボロの自宅で95歳の生涯を閉じられた。

## 1986 「鈴木鎮一先生米寿を祝う会」に出演

1986年10月17日に米寿を迎えられた鈴木鎮一先生をお祝いして松本支部と東海地区でコンサート、そして関東地区では東京會館で祝賀会、サントリーホールでコンサートが開催され、フルート科も参加して演奏を行なった。

## 1989 第9回世界大会を松本で開催

2年ごとに行なわれる世界大会が再び松本で開催された。世界23カ国から1,200人の指導者、生徒、保護者が来日、連日レッスンやコンサート、講演会が行なわれ、実行委員長を髙橋利夫が務めた。綿密な準備が功を奏して、順調な運営が行なわれ、各国の参加者からは感嘆の声が寄せられた。

## 1996 幼児用U字管フルートを開発

より小さな子どものために「幼児用U字管フルート」をメーカーとともに開発。スズキ・フルート指導曲集第1～2巻のレベルで必要のない低音Cとトリルキーを外し、極力軽量化を図る。フルートを吹きたい！学びたい！という夢のスタート年齢を下げることに貢献した。



その後のスズキ・メソッドのコンサートでは、幼児用U字管フルート、U字管フルート、ストレートフルートの3種類のフルートで吹く子どもたちの合奏する姿が定着した。



30日夜のコンサートで、10歳の宮前文明君がハンガリア田園幻想曲（ドッブラー）を演奏



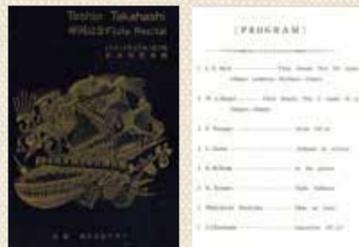
再来日したモイーズと鈴木鎮一



松本市民あがての歓迎の中で、フルート科はジュナンの「ベニスの謝肉祭」などを合奏



東京會館でのパーティでも演奏



帰国リサイタルプログラム



第18回全国大会のプログラム



才能教育会館にてモイーズと髙橋利夫



初めて参加した全国指導者研究会



テンペリアウキオ教会でのファイナルコンサート

## 1997 第1回スズキ・フルート国際大会をフィンランドで開催

8月5日～11日にかけて、フィンランドの首都、ヘルシンキで開催。日本、ヨーロッパおよびアメリカ、カナダなど10カ国から指導者、生徒、その家族、総勢300人近いフルート関係者が集まった。指導者養成コースと生徒のレッスンとが連日行なわれ、最終日には、ヘルシンキ市内の岩山を砕いて建てられたことで有名なテンペリアウキオ教会でコンサートをを行い、教会の中で朗々と鳴り響くフルートの大合奏は感動的だった。

## 1998 鈴木鎮一先生逝去

1月26日 99歳の生涯を閉じられた。3月17日 鈴木先生会葬コンサート。



精霊の踊り（ゲルック）を演奏

## 1998 長野冬季オリンピック記念コンサートに出演

鈴木先生のご逝去に悲しむ中、スズキ・メソードの本拠地、松本のある長野県で冬期オリンピックが開催され、記念コンサートで100人のフルートの大合奏を披露した。



100人のフルートの大合奏を披露

## 1999 第13回世界大会を松本で開催

鈴木鎮一のメモリアルとして、3月27日～4月3日にかけて、松本で世界大会を開催。フルート科ではアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリアのティーチャートレーナーを招聘。またカナダのフルーティスト、ロバート・エイトケン氏をゲスト奏者として招聘。美しい音色を聴かせた。



世界からスズキ・メソードの関係者が集った

## 2009 第1回フルートグランドコンサートを開催

11月23日、200人の子どもたちによるフルートグランドコンサートを国立オリンピック記念青少年総合センター大ホールで開催した。ヴァイオリン科、チェロ科の子どもたちのオーケストラと交響曲第38番二長調「ブラハ」(モーツァルト)、精霊の踊り(ゲルック)、2本のフルートのための協奏曲ト長調(チマローザ)を演奏。フルートオーケストラで「イギリス民謡組曲」(ヴォーン・ウィリアムズ)など、フルートの魅力をたっぷりと盛り込んだプログラムとなった。



多彩なフルートでフルートオーケストラを実現

## 2010 宮前文明連続フルートリサイタルを開催

東京(6月13日) 武蔵野市民文化会館小ホール、名古屋(6月19日) 中電ホール、松本(6月20日) 才能教育会館ホールの3会場で、宮前文明が意欲的なプログラムを披露した。



長谷川クラス弦楽団と共演した名古屋公演

## 2012 東日本大震災復興支援チャリティコンサート東京2012に出演

前年2011年3月11日未曾有の大災害「東日本大震災」が起き、29日に予定されていた第53回グランドコンサートは中止となった。翌年3月27日、サントリーホールで復興支援コンサートを開催。関東地区、東北地区の生徒900名余とOB・OGたちが出演した。



被災地の復興を願って、演奏

## 2013 3月 第16回世界大会を松本で開催

3月27日～31日に14年ぶり、4度目の開催となった松本に、国内外から5,000人が集結。

## 2013 8月 フルード単独の夏期学校を開催

毎年恒例の大会主催4科合同の夏期学校は、3月の世界大会に集中したため、開催されなかった。そこでフルート科では初めて単独の夏期学校を開催。会場は松本にある才能教育



マスタークラス(フルード夏期学校)



素晴らしい響きを届けた世界大会

会館。朝9時より教室レッスン、午後は宮前文明によるグループレッスン、コンサートもあり、一日中フルートの音の世界に浸る、充実した毎日となった。

## 2014-2016 アメリカでのスズキ・フルート研究大会でワークショップ行なう

イーストテネシー大学スズキ・フルート国際研究大会、およびワシントン・スズキ・フルート研究大会(SAGWA)が高橋利夫、宮前文明を招聘。高橋はアメリカ国内外から参加した指導者に音楽表現法を指導し、子どもたちにグループレッスンを行なった。宮前はゲスト奏者として演奏を行なった。



イーストテネシー大学でのスズキ・フルート国際研究大会にて

## 2014 フルード専門誌「The Flute」に広告出稿スタート

7月より「The Flute」(アルソ出版)との間で、広告提携関係を開始。現在に至る。

## 2014 「高橋利夫先生喜寿祝賀会」を開催

松本のホテル・ブエナビスタで、11月30日、喜寿祝賀会を開催。フルート科をはじめ、全国のヴァイオリン、チェロ、ピアノの指導者、海外からはアメリカ、カナダ、フィンランド、台湾のフルート指導者ら約150人がお祝いに駆けつけた。



終始和やかな会が進行した

## 2015 「豊田耕児先生への感謝の会」に出演

3月に才能教育研究会音楽監督を退任し、4月より名誉会長に就任された豊田耕児先生への感謝の会が、4月5日、松本市音楽文化ホールで開催された。フルート科は、歌の翼に(メンデルスゾーン)を演奏。



フルートアンサンブルの研究

## 2015 6月 副教材オブリガートパート譜を制作

コンサートのフィナーレで演奏する全科合奏で、フルートはオブリガートパートを演奏したいという長年の夢を実現。ヴァイオリン指導曲集第1巻No.1～12、また、過去に編曲されていた指導曲集第1巻No.17、第2巻のNo.3、No.7も合わせて収録。

## 2016 高橋利夫が本会名誉教授に就任 宮前文明が特別講師を務める

4月、高橋利夫が才能教育研究会の名誉教授に就任。フルーティスト宮前文明を才能教育研究会フルート科特別講師に迎える。



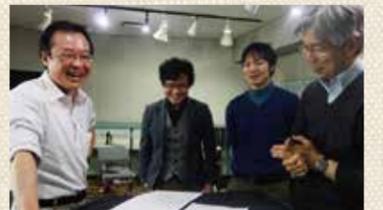
夏期学校でのグループレッスン

## 2017 新年吹き初め会を開催

1月9日、初級の生徒から上級の生徒まで一緒にグループレッスン。お互いの音を聴きながら、音楽的な表現を高めるためのアプローチを行なった。

## 2017 東京大学との共同研究に協力

2017年1月からスズキ・メソードと東京大学大学院総合文化研究科の酒井邦嘉研究室が「脳科学が明らかにする言語と音楽の普遍性」というテーマで共同研究をスタート。その研究で用いる音源に脳神経科の科学者でもある宮前文明が協力。3月24日、都内のスタジオで音源作りが行なわれた。



酒井邦嘉先生(右端)らと音源収録時の様子

## 2018 「鈴木鎮一先生誕120周年記念」第54回グランドコンサートに出演

4月4日、両国国技館で初開催。2本のフルートのための協奏曲第3楽章(チマローザ)などを演奏。

## 2021 スズキ・フルート創設50周年を迎える

2020年の世界的に感染拡大した新型コロナウイルスの影響により本会主催、各地区主催、支部主催のコンサートなど行事が次々と中止または延期に。教室レッスンでもパソコン、スマホを使つてのオンラインレッスンを実施。2021年になって再開された対面レッスンでは、感染防止対策を各教室で徹底。

50周年企画として、「記念ロゴ制作」「先生生きてフルート動画募集」「50組で繋ぐきらきら星変奏曲」「記念誌制作」「公式サイト年表リニューアル」などを展開した。



東京とピッツバーグ(アメリカ)で同時演奏録画

## 祝 50 周年記念メッセージ

# 私とスズキ・フルート

### 私の指導の基盤を学びました

マリア・レーナ・マキラ  
ティーチャートレーナー フィンランド

スズキ・メソッド・フルート科創設 50 周年にあたり、フィンランドから、心からのお祝いと敬意を表します。

1978 年に初めてスズキ・メソッドのフルート指導曲集 2 冊を入手しました。



1983 年にイギリスで行なわれたスズキ・フルートの入門コースで、フルート科の創始者である高橋利夫先生と初めて出会いました。私の最初のティーチャー・トレーナーは、レベッカ・パルツィとサラ・ヘンリーでした。1989 年以降、私は何度も松本を訪れたり、ヨーロッパでの会議やワークショップで高橋先生からスズキ・フルートを学ぶことができ、光栄に思っています。1997 年にはフィンランドでの国際フルート・コースに高橋先生を招待しました。2013 年に松本で開催された世界大会では、クラスを受け持つ講師の一員として参加させていただきました。

日本に留学していた時、私はある家族のお宅にお世話になっていました。そこで、たくさんの優しさとおもてなしを経験しました。いつも大切にされ、おいしい食事でもてなしていただきましたし、たくさんの興味深い場所に連れて行っていただきました。毎週、個人レッスンやグループレッスン、音楽理論やオペラのクラスがありました。学校でも下宿先でも練習する機会がありました。

心に残っているコンサートは、1989 年の世界大会の開会式でした。フルート科は、宮城道雄の「春の海」を 3 面の箏との共演で演奏しました。また、鈴木鎮一先生にお会いする機会もあり、毎週のように鈴木先生のレッスンやヴァイオリンの生徒さんのコンサートを見学させていただきました。

私は、スズキ・フルートの核心を学ぶことができたことをとても光栄に思い、感謝しています。自分の指導のための確固たる基盤と、世界中にいる生涯の友人や同僚を得ました。

### 高橋先生のアペラクラスが、ハイライト！

ローラ・ラーソン  
ティーチャートレーナー アメリカ

アメリカのスズキ・フルートのワークショップで、高橋利夫先生のティーチャー・トレーニングを受けたことのある人なら誰でも、日本に行ってスズキ・フルートを学びたいと切に願っていることでしょう。80 年代初頭の私もそうでした。日本に行く機会が訪れた時、私は才能教育研究会で 3 ヵ月間勉強することに決めました。しかし、学ぶことが多く、合計 1 年間滞在しました。

高橋先生はとても歓迎してくれましたが、同時に厳しい人でもありました。学生たちが不安になると、ユーモアと愛情をもってすぐに安心させてくれました。研究生や子どもたちへのご指導を聴講することで、先生のもとの学びをさらに深めることができました。特に印象的だったのは、お弟子さんたちの大きくて華やかなフルー

トの音色でした。これはどうやって実現したのでしょうか？ その理由を知りたいと思いました。彼の指導の多くは、フルートのフレンチスクールの伝統とマルセル・モイーズの教えに基づいています。

1 日の多くを練習時間にあてていました。誰かがいると練習に集中できないという人に、私はよく研究生用控室で練習する際の集中の難しさを例に挙げて説明します。研究生の控室は、ロッカールーム、グループ練習、お茶とクッキーの部屋、そして交流の場でもありました。いつでも鈴木先生が入ってきて、みんなに挨拶したり、名言や冗談を言ったり、クッキーをお持ちになったり！

毎週のスケジュールとして、毎日の鈴木先生の授業、片岡ハルコ先生のピアノの授業、そして全員参加の書道の授業がありました。私は書道の精巧なスキルを学ぶことを楽しみにしていましたが、初心者レベルから抜け出せませんでした。もちろん、高橋先生のオペラクラスも忘れられません。それは、マルセル・モイーズの著書『Tone Development Through Interpretation』を教材とするものです。往年の名歌手が歌う美しいオペラアリアの録音を聴き、それを模倣するように指導されます。最初は一人のソロで、次にクラス全員で、模倣演奏をするよう指導されました。オペラクラスが私の 1 週間のハイライトでした。

私の才能教育音楽学校での生活は、卒業リサイタルで幕を閉じました。花束、スピーチ、プレゼント、そして豊かな食事と愛と友情に満ちたレセプションなど、感動的なイベントでした。

このたびは、私の人生の中で、重要な年の思い出を共有する機会を与えていただき、ありがとうございました。

### 1986～1987 年のスズキ・フルートの思い出

ジュリア・グリーン  
ティーチャートレーナー オーストラリア

高橋利夫先生からスズキ・フルートの研修を受けるために初めて日本に来たのは、1981 年の終わり頃でした。夫と 3 人の子どもと一緒に来ました。夫は子どもたちの世話と家事をしていましたが、日常生活に必要な最低限の日本語は身につけていました。6 畳の部屋を 2 つ借りて、週に 2 回、才能教育会館の近くにあるお風呂屋さんに行きました。なかなか冒険的な体験でした！ 2 人の子どもは森ゆうこ先生と鈴木鎮一先生にヴァイオリンを習っていました。なんと幸せな子どもたちでしょう！ そして一人の娘は片岡ハルコ先生にピアノを習いましたが、片岡先生はとても励ましてくれました。

高橋先生から受けた 2 ヵ月間のご指導は、まさに「目から鱗」の



体験となりました。高橋先生の、フルートで美しい音楽を表現したいという情熱と、お人柄に感銘を受けました。また、高橋先生は英語を流暢に話されるのでとても助かりました。その頃、同じフルート科の研究生で、才能教育研究会を卒業したばかりの上田賢一さんと出会いました。その後、私は、才能教育研究会に何度も足を運ぶことになったのです。

1989 年の夏に家族と一緒に、松本で開催された第 9 回世界大会に参加し、高橋先生の個人レッスンを受けてきました。この時、北米の多くのフルート指導者やティーチャー・トレーナーに出会いましたが、彼らとの交流はとてとても特別なものでした。私は、あがたの森（旧松本高等学校）の大会議室で行なわれたフルート指導者とのセッションをよく覚えています。

1989 年 12 月、雪が降って凍えるような寒さだったクリスマスをはさみ、オーストラリア人の同僚と、高橋先生のもとで 1 ヵ月間、集中的に学びました。

1999 年 3 月から 4 月にかけて、再び松本で開催された世界大会に参加しました。癌の化学療法を終えたばかりでしたが、体調管理は良好で、この会議に参加したことで大きな利益を得ることができました。

2013 年 3 月には、驚異的な数のフルートの生徒や先生が参加した素晴らしいスズキの世界大会が松本にて開催され、私も参加しました。この世界大会の運営は本当に素晴らしいもので、広大な屋内会場で行なわれた「お別れコンサート」も大変に印象的でした。また、鈴木鎮一先生のお墓や才能教育会館の建物にある鈴木先生の教室を訪れることができ、感動的な体験でした。

2015 年 10 月、ISA（国際スズキ協会）の理事会（2010 年から 2017 年まで ISA の理事）と、ISA フルート委員会の会議に参加し、高橋先生や他の委員とフルート指導曲集第 1、2 巻の改訂作業を行ないました。これらの思い出は、すべて私にとってとても鮮明で、貴重なものです。これからも才能教育研究会の発展を願っています。

### 高橋先生は私が知る限り、最も熱心な先生です

レベッカ・パルツィ  
ティーチャートレーナー アメリカ

本多正明先生は、そのご著書「Suzuki Changed my Life」で有名ですね。私の場合は、「高橋利夫先生とスズキ・フルートが私の人生を変えた！」ということになります。私の哲学、洞察力、世界観、視点も変わったのです。

初めて高橋先生に会ったのは、1980 年、ウィスコンシン州スティーブンスポイントで行なわれたアメリカ・スズキ研究会でのことでした。主催者のマージェリー・エイバー（Vn）は、スズキの新しい楽器を強く支持していて、北米でフルートの生徒がほとんどいなかったその時代に、勇気を持って「スズキ・フルート」を研究会プログラムに加えたのです。私は当時、自分が何を期待していたのかわかりませんでした。すぐにこの教育法の虜になりました。翌年の夏、アメリカ各地で行なわれた高橋先生のクラスを転々として参加したところ、「日本に来て勉強してみないか」と誘われました。1982 年 5 月に松本に来て、それから毎年、才能教育会館に通うようになりました。

それ以来、スズキの国際会議に出席するため、あるいは高橋先生のもとで学ぶために、多くの生徒を松本に連れてきました。また、1998 年の長野オリンピックでは、生徒たちと一緒に演奏する機会にも恵まれました。

高橋先生は私が知る限り、最も熱心な先生です。生徒一人ひとりに最適な伝え方を選択し、オーダーメイドの完璧な例え話や比喻、事例を探し、生徒が理解したと確信するまで決してあきらめない、たゆまぬ努力を続けておられます。説明と経験の間にあるギャップを、イメージを使って雄弁に語ることで、まるで魔法のように一瞬にして生徒が反応してくれるのです。

レッスンでは時間が不足するということはありません、高橋先生は自分を惜しみなく出してくださるからです。彼は単なるレッスンをしているのではなく、生徒に教えるようとしているのは明らかです。高橋先生はよく、「物が欲しいのではなく、指導や指揮へのインスピレーションが欲しいのだ」とおっしゃっていました。

真のリーダーとは、他のリーダーを育て、他の人が自分のやり方を見つけられるようにする人です。高橋先生は、日本と世界の両方で多くの指導者を育ててきました。そのおかげで、スズキ・フルート・プログラムは世界中に広く普及し、繁栄しています。

私は、松本で学んだ時間を大切にしています。人生を変えるような経験をさせてもらいましたし、才能教育研究会がよりよい指導者を育てるために、そして音楽を通して世界を救うために、街全体が協力しているように感じました。

私は、松本で愛に育まれました。そして、この方法を他の人々と共有することは私の名誉であり、特権でもあります。高橋先生、鈴木先生、そして才能教育研究会に感謝します。

### 稀に見るフルート教授法

井上昭史 高橋利夫クラス出身、元フルート科指導者

1972 年に松本に居を定め、高橋利夫先生に師事、その後 78 年まで東京でフルート科の指導にあたった井上です。この経歴が示すように、フルート科が創設されたほぼ当初からお世話になりました。



スズキのフルート科は、モイーズ奏法と鈴木先生の教育理念を Takahashi Method により見事に結合させた、稀にみるフルート教授法です。音づくり（トナリゼーション）に限った話になってしましますが、具体的には、鈴木先生がクライスラーの音の秘密を誰にでもわかるように示してくれたように、高橋先生はモイーズのような音の出し方を解き明かしてくださったのです。

そのモイーズ大先生を日本に招聘することができたのは、スズキ・メソッドと高橋先生ご自身の尽力のたまものと言えるでしょう。マルセル・モイーズは知名度こそ高いものの、その所在すらなにかば不明の伝説のフルーティストだったのでから…。スズキ・メソッドにかかわっていたお蔭で、私もその伝説のフルーティストにじかに接し、かばん持ち？までさせていただきました。投稿した写真に写っているのはモイーズ大先生、ブランシュ先生、高橋先生と奥様、そして、あの時の私です。

### モイーズの「ユーモレスク」冒頭の音に感動！

谷奥 浩 高橋利夫クラス出身、元フルート科指導者

巨匠モイーズ来日の立役者 高橋利夫先生！  
モイーズ大全集（昭和 45 年村松楽器より販売。レコード 6 枚組）の第 3 巻 9 曲目、ドヴォルザークの「ユーモレスク」の出だし

# 私とスズキ・フルート

研究科第3期を卒業した年のグランドコンサートで、鈴木先生のピアノ伴奏で、「キラキラ星変奏曲」を演奏したことを覚えています。本当に感動しました。また、卒業録音のコメントを、鈴木先生の生の声の録音でいただいたことがあります。モーツァルトの協奏曲でしたが、その中で鈴木先生に「美しい音…」と褒めていただいたことで自信を持つことができるようになりました。今、フルート奏者や講師としての仕事ができているのも、スズキ・フルートで学んだお陰と思っており、感謝しています。これからも、命の宿る美しい音を目指して、勉強していきたいと思っています。

## 豊かな子ども時代を過ごすことができました

福沢絢子・荒深絃子 桂聡子クラス出身

スズキ・メソッドフルート科創立50周年記念、誠にありがとうございます。桂聡子先生のもとで約11年間ご指導を賜りました。フルート科での学びは、私たち姉妹の核となっています。学校と家との生活以外に、フルートという大きな柱があったからこそ、豊かな子ども時代を過ごすことができました。



聡子先生は、いつも一人ひとりの生徒さんのペースを尊重して、指導者であっても対等に接して下さり、育てていただきました。日々のお稽古から忍耐力を養い、諸外国の仲間とフルートを通じて交流できたことで、自然と多様性を学ぶことができました。

現在、私たちは、養護教諭・エプソンの研究職員と別々の道を歩んでおりますが、辛抱強く諦めずに仕事に取り組む粘り強さは、フルート科での学びで培われました。

そして母となり、息子たちはチェロ科の北沢加奈子先生のご指導のもと、日々お稽古に励んでいます。スズキ・メソッドの教えを通じて、親子の絆がより深いものになりました。

フルート科のますますの発展を祈念しております。

## 一番の思い出は、ドイツへの演奏旅行です

米窪 怜 桂綾子クラス出身

スズキ・メソッドフルート科、創設50周年、おめでとうございます。私は3歳からスズキ・メソッドでフルートを習い始めました。

スズキ・メソッドでの思い出はたくさんありますが、一番の思い出はテンチルドレンに選んでいただいて、ドイツへ演奏旅行に行かせていただいたことです。もう20年ほど前のことになりますが、ドイツの大きな



2002年、ベルリンにてホールで演奏した時に感じた喜びや感動を、今でも鮮明に覚えています。本当に貴重な経験をさせていただきました。

また、毎年夏に行なわれる夏期学校や春先に行なわれるグランドコンサート。全国からフルートを学ぶ生徒さんや先生方が集まり、一緒に演奏できることがとても楽しかったです。

現在は私もフルートを教える立場になりました。生徒の皆さんにフルートをもっともっと好きになってもらえるように、スズキ・メソッドで学んだことを活かしていきたいと思っています。

ほとんど練習しない状態でレッスンに通っていました。そんな時も宮地先生は、明らかに上達していない私を叱ることなく、熱心に指導してくださいました。その後も、松本で開催された世界大会(1999年)の大きな舞台上でソロを吹かしていただいたり、後の音楽大学進学のかきかけとなる先生のレッスンを勧めていただいたりと、多くの経験をさせていただきました。

今から考えると、スズキ・フルートの良かったところは、ソノリテなどの基本を丁寧に学べたこと、また、暗譜演奏が基本だったことです。これは今でも役立っています。また、数々の演奏会で人前で演奏する喜びを教えてくださいました。

そして、宮地先生から教わった音楽する喜びを伝えること、適切に褒めて、生徒のやる気を引き出すことを、指導する際に第一に考えて、生徒に接しています。

今は遠くにいて、コロナ過でもあり、宮地先生に会うことも、スズキ・メソッドの演奏会などにも顔を出すことは叶いませんが、これからもスズキ・メソッドのフルート科で多くのフルート好き、音楽好きの生徒が生まれることを願っています。

## あの感動と興奮は、今も忘れられません！

新山乃登花 中田英里クラス出身

朝から晩までフルートにどっぷり浸かってみんなと一緒に過ごす夏期学校が、私は大好きです。夏期学校でのフルート科の団結力と仲良し度は、どの科にも負けられないと思っています！

ヘトヘトになりながらがんばったフルートマラソンや、宿で友だちと夜まで練習したり、おしゃべりしたりなど、夏期学校での思い出は数え切れないほどありますが、「協奏曲の夕べ」に出演させていただいたことは、一生の思い出になりました。先輩たちが、オーケストラをバックに素敵な演奏をされる姿を小さい頃から見てきて、ずっと憧れの舞台だったので、そんな風になれるか不安でしたが、たくさん練習して、周りの人に支えられて、本番を迎えることができました。本番は、本当に楽しくて一瞬で終わってしまいましたが、あの感動と興奮は、今でも忘れられません！



## 卒業録音で、鈴木先生に褒めていただきました

穴戸(中田)美奈子 宮地若菜クラス出身

私とスズキ・メソッドとの出会いは、鈴木鎮一先生の著書「愛に生きる-才能は生まれつきではない」を読んだことでした。音大を辞めて、大好きだったフルートを吹くことが辛くなっていた頃、この本を読み、『自分の能力を育てるのは自分…やり抜く根気もまた能力』という言葉に励まされ、八王子にある、スズキ・メソッドの教室の門を叩きました。

スズキ・メソッドのレッスンで、私は再びフルートの楽しさを取り戻すことができました。宮地先生は優しくも、奏法について実際的に、明確に教えてください、感謝しています。



思って笛を引っ張り出し、高橋先生のレッスンを再びちょくちょく受けるようになりました。30数年ぶりにお会いした高橋先生は、以前とお変わりなく大変嬉しく思いました。またちょうどその頃に立ち上がった母校のオーケストラに加わり、最近では松本交響楽団にも入って、大作曲家との逢瀬を楽しんでいます。このように人生の糧としての音楽を享受できる稀有なこのスクールが、高橋先生のご健勝とともに、今後ますます発展されることを祈念しております。

## 幼い頃に身につけた良い習慣を、今も実践しています

日野裕子/日野薫子母 岩波寿美クラス出身

スズキ・メソッドフルート科創立50周年おめでとうございます。

スズキ・メソッドでの思い出はたくさんありますが、その中で1番の思い出は、やはり夏期学校です。上の娘がヴァイオリンを習っていたので、夏休みに親子3人、時には家族全員で松本に向かい、朝から晩まで練習やコンサート鑑賞で音楽に浸ることは、毎年のわくわくする行事でした。また、先生やフルート科のお友だちと浅間温泉に滞在して花火をしたり、皆でスイカを食べたことも忘れられない夏の思い出です。



フルートグランドコンサートで(2009年11月23日)

最後に参加した夏期学校では、まつもと市民芸術館での「午後のコンサート」に出演させていただきました。馬蹄型の素晴らしいホールで、たくさんのお客様を前に演奏したことは、とても良い経験になりました。

夏期学校の合奏練習で高橋先生はよく「ごはんをしっかり食べてきましたか。お腹が空いては良い音が出ません」と仰っていました。そして身体をほぐす「フルート体操」から始まりました。「しっかり食べて、身体力を抜いて、良い姿勢で良い音を」。幼い頃に身につけた良い習慣は音大生となった今でも続いています。

コロナ禍で先生方もいろいろご苦労が多いと思いますが、これからのますますのご発展をお祈りしております。

## 教育の現場で、いまも役立っています

石川絃一郎 宮地若菜クラス出身

私は現在、私立の中高一貫校で音楽の教諭、吹奏楽の顧問として毎日、楽しくも苦勞しながら充実した日々を過ごしています。どうしたら生徒が心を開き、心から楽しんで音楽をしてくれるか、どうしたら音楽の喜び、楽しみが伝わるか、毎日試行錯誤しているのですが、いつも参考にしているのが、スズキ・メソッドでフルートを教えていただいた宮地若菜先生です。



吹奏楽コンクールで指揮者としての一場面

私は小学4年生の時にフルートの音色に憧れ、スズキ・メソッドで宮地先生に習い始めました。宮地先生はいつも丁寧に優しく、良い所は褒めながら指導をしてくださいました。私は褒められることがうれしくて、フルートはずっと続けていきたいと思って通っていました。中学生、高校生になると、部活やその他のことも忙しくなり、

のGの音。この音以上の豊かな音色を、生演奏や録音を通して他のフルーティストから聴いたことがありません。昭和53年には「モイーズとの対話」が出版されています。著者は高橋利夫。久しく絶版でしたが、再販されているのを楽器店で見かけて懐かしかったです。この本の後半は「モイーズ奏法に関する考察」という発音練習法に、誌面を相当割かれています。



出版当時、私はこの本を譜面台にのせて読みながら、その練習法で練習したのですが、音や奏法を文章でマスターしようと思ってもすぐに限界がきてしまいました。仕方がないので22歳の時に、この本の著者が住む松本に東京から引越して直接教を乞うことにしました。高橋先生！本当にありがとうございました。

## 今でも私の心の中で大きな大きな光を放っています

矢崎(桂)聡子 高橋利夫クラス出身、元フルート科指導者

スズキ・メソッドフルート科創設50周年おめでとうございます。

高橋先生がお教えくださった「レッスン時のお辞儀の意味は、お互いへのリスペクト。この1週間、無事に過ごせてまた会えたこと、生命への感謝」「作曲家に失礼のないような演奏を…」など、今でも私の心の中で大きな大きな光を放っています。音楽を通し、人生に必要な様々なことを教えていただきました。感謝申し上げます。



アメリカ独立記念日 なんとスカートは国旗柄！

夏期学校、指導者研究会、全国大会、国際大会…、皆が一堂に会し、ともに演奏できていたこと一、コロナ禍の今、あらためてその素晴らしさを思っております。"生"で合わせる喜びを味わえる日が早く戻りますように。スズキ・メソッドフルート科のますますのご発展をお祈り申し上げます。

## ご指導は、常に音楽や芸術の本質に関わるものでした

塩沢丹里 高橋利夫クラス出身

私は松本生まれの松本育ちで、現在も松本で働いている者です。このたびはスズキ・メソッドフルート科創設50周年とのこと、心よりお慶び申し上げます。

私が高橋先生の門を叩いたのは、たしか小学校5年(1970年?)で、その後高校2年まで通いました。この間、多くの曲に接し、また幾度か発表会にも参加して充実したフルートライフを送らせていただきましたが、今考えてみますと、高橋先生のご指導は、技術面よりも、常に音楽や芸術の本質に関わるものであり、そこで得られた知見は、その後の自分の美意識や芸術観の基盤になったと感じております。大学に進んでからは音楽とは縁が切れてしまいましたが、50歳を過ぎた頃から、老後の楽しみにと



# 私とスズキ・フルート

## フルートを通して得た学びは、宝物です

鳥羽里美 桂綾子クラス出身

小学生の頃、スズキ・メソードで弟がチェロを習っており、送迎の際にフルート教室を通り、毎回フルートの音色が素敵だと思い、強く惹かれ、フルートを習い始めました。



当時はフルートの指使いを覚えることに必死でしたが、1つの曲を吹けた時に感じた幸せは、今でも覚えています。1つの曲を吹けるまでには、当時ご指導していただいた桂先生に、たくさんのご迷惑をかけていたかと思います。とても丁寧に小学生の私でもわかりやすい伝え方で、教えていただきました。

また、フルートの技術だけでなく、立ち方や構え方なども教えていただき、今でも役に立つことがあります。中学生で吹奏楽部に入学したため多忙となり、残念ながらスズキ・メソードから離れてしまいましたが、桂先生の短期間のご指導で得た学びはとても大きかったです。私は中学、高校とフルートとともに生活し、部活動のコンクールだけでなく、ソロで積極的にコンクールに挑むなど、たくさんの経験を得ました。フルートを通して得た学びは、自分の宝物として今後も大切にしていきたいと思います。

## 楽しい思い出がたくさんあります

鈴木紗絵 岩波寿美クラス出身

私がスズキ・フルートと出会ったのは3歳の時でした。幼なじみがスズキ・メソードでヴァイオリンを習っており、グランドコンサートに誘われたのがきっかけでした。その後すぐに、岩波先生のもとで習い始め、次々といろいろな音が出せるようになっていくのが、とても楽しかった記憶があります。

夏期学校にも何度も参加し、高橋利夫先生や宮前丈明先生を始めとした多くの先生にレッスンしていただきました。先生方のお腹や喉を触らせていただいたのが、とても記憶に残っています。レッスンだけでなく、フルート科のみんなとの触れ合いや、花火大会など楽しい思い出がたくさんあります。「協奏曲の夕べ」にも出演し、オーケストラの伴奏でソロを吹くという大変貴重な経験をさせていただきました。演奏後、オーケストラの管楽器奏者の方々に「良い演奏だったよ」と褒めていただいたのが、とても嬉しかったです。

スズキ・フルートを卒業した後も、アマチュアオーケストラに所属してフルートを続けています。幼い頃からずっとご指導いただき、フルートを吹く楽しさを教えてくださった岩波先生に感謝申し上げます。

## 退職をした今、再びフルートを持ち、がんばっています

金井紀与恵 安間由佳クラス出身

スズキ・メソードフルート科50周年のお祝い申し上げます。スズキのフルート教室にお世話になったのは32年程前。6～7年所属し、姪はヴァイオリン科に所属していました。鈴木鎮一先生の「どの子どもも育つ環境次第」を知り「私も幼少の頃に出会っていたら良かったのに…」と強く思っていました。ある音楽会で、ビゼーの「アルルの女からメヌエット」のフルートの音色に魅了。頭も心もフルートが取り憑かれ、勇気を出してスズキ・メソードのフルート教室に「大人の心」を受け入れてもらえるか？懇願。「私も育て

て…」と。そして入会できましたが、大人の私は身体も頭も指も、すべて動こうとせず、そんな私でしたが先生方が牽引して下さり、何年後かついに「アルルの女」が吹けるようになった時は本当に嬉しく思いました。当時の指導曲集を見ると先生方のご苦労（私も）がよくわかります。

数年後、諸事情により遠のいてしまいましたが、定年退職をした今、再びフルートをもち、地元のアンサンブルサークルに入会。今度は老体、老眼、老指の三苦。平均年齢70+歳！パワフルな方々に混ざり、がんばっています。スズキ・メソードの先生方に感謝申し上げます。お陰様で今も楽しんでおります。

## 大人数で練習する夏期学校が、毎年楽しみでした

摺出寺航 摺出寺敬子クラス出身

スズキ・メソードフルート科創立50周年おめでとうございます。私は小学生の頃、毎年、夏期学校に参加していました。大人数で練習する機会が自分にとっては珍しく、とても楽しかった思い出があります。発表会に向けて練習を重ね、本番でいい演奏ができた時は達成感があり嬉しかったです。スズキ・メソード、フルート科がこれからも発展していくことを期待しています。

## 楽器を通じた出会い、得られる経験が魅力です

井上直 宮地若菜クラス出身

今から10数年前の社会人1年目、赴任先の町で週末暇を持て余し、町外れの小さなジャズバーへ。客が楽器持参で自由気ままに演奏する場でしたが、私も店主に言われるがまま、若気の至りかお酒の力か、フルートを適当に吹いておりました。気がつけば、同様にお客として演奏していた女性と結婚しており、気がつけば3児の父になっておりました。



スズキ・メソードでフルートに出会ってから30数年経ちましたが、今でも私の傍らにはフルートがあります。私にとって、楽器自体は無論のこと、楽器を通じた出会い、得られる経験、すべてがフルートの魅力であり、一向に腕はあがらなくても吹き続けている理由かもしれません。

今、子どもたちは何かしら楽器を手にし、スズキ・メソードのお世話になっている子もいます。残念ながら我が家でフルート吹きは私だけですが、5人家族、時に一緒に演奏することもあります。スズキ・メソードに通っていなかったら、なかった風景であり、お世話になった先生方、そして親には感謝の念しかありません。

フルート科創設50周年おめでとうございます。これからも素敵な音に満ち溢れた教室でありますこと、祈念申し上げます。

## 今も自分と向き合い、考えながら練習しています

前原勝子 宮地若菜クラス生徒

宮地先生にご教授いただき28年が経ちます。始めたのは23歳の時でしたので、当時は宮地先生クラスで、フルートがとても上手な子どもの生徒さんたちに憧れを感じました。そんな子どもたちは私にとって素敵なお手本でした。今やその子たちが大きくなり、演奏家となった方はグレードアップした演奏をコンサートで聴かせてくれます。また、今もフルートを続けている子たちとアンサンブ

ルを楽しむことができるのは本当に幸福なことです。楽しい時間ばかりでしたのは、宮地先生のご尽力のおかげで大変感謝しております。どうもありがとうございます。

フルートは週末しか練習することが叶わないため、上達は亀の歩みです。週末の吹き始めは、フルートを吹くための身体になっていないので、良い音が出なくても自分を責めず、フルートに息を吹き込むことを楽しむように考えて音出しをするようにしています。焦っても空回りするだけだということを、長い時間をかけ、思い知りました。でも単純にフルートに息を吹き込むことだけでも楽しいです。私は左利きですが、標準型のフルートを吹いています。右手が力む癖をなかなか克服できません。しかし、どうやって癖を矯正するか考えながら練習することも楽しくて仕方ないです。

## 人生の節目・転機はスズキ・フルートとともに

樋川洋

遠藤三枝子・矢島(市川)朝子クラス出身、植田理恵クラス生徒

今でも私の心の中に必ず浮かぶのは、学生時代に聴いたフルートの発表会です。なぜその発表会に行ったのかは、まったく思い出せませんが、小学生が「アルルの女からメヌエット」を上手に、しかも音楽的に演奏したことと、指導者の方の解説を交えた演奏は、はっきりと脳裏に焼き付いています。それが才能教育フルート教室の発表会であることは後で知りました。

それから10年後、スズキ・メソードフルート教室で習っている高校生の勧めで、フルートを始めることになりました。フルートに憧れがずっとあったのかもしれません。指導して下さったのは遠藤先生、市川先生でした。同じ頃、保育園児のIさんとはごあいさつと一茶の俳句の暗唱でしたが、あつという間に上達しました。他の生徒さんも同様です。

青春とは音楽の季節なんですか。皆さんフルートに夢中になって上達も素晴らしく、羨ましく思いました。私の方は大した進歩もなく、病気のためフルートを中断してしまいましたが、退職を機にもう一度フルートをと思い立ち、現在、植田理恵先生にレッスンしていただいています。植田先生は40年近く前に私にフルートを勧めてくれた高校生です。私の人生の節目・転機はスズキ・フルート教室とともに訪れるようです。

## 親子一緒に楽しくお稽古しています

山田(三枝)始美

矢島朝子・植田理恵クラス出身、岩波寿美クラス生徒

フルート科50周年おめでとうございます。スズキでフルートを習い始めてから30余年、振り返ればたくさんのことが思い出されます。矢島先生には演奏する上での基本的なことを教えていただきました。お稽古では完全に暗譜するまで◎をいただけず、苦勞したこともありましたが、お陰様で30年以上経った今でも、当時の曲はほぼ暗譜しております。大学時代はスズキを離れておりましたが、



卒業後再びお世話になった植田先生には、たびたび時間を延長して濃密なお稽古をしていただき、スズキを離れていたブランクを埋めていただきました。音階練習なども徹底してお稽古していただき、今もその恩恵を感じております。また、夏期学校での高橋利夫先生、宮前丈明先生のマスタークラス受講、中田英里先生のフルートマラソンなども本当に良い経験となっております。そして、結婚後から現在もお世話になっている岩波先生には、自分自身のお稽古だけでなく、娘の成長もずっと見守っていただいております。ハイハイや伝い歩きで先生をお稽古外で困らせていた娘も、もうすぐ高校生。今では親子一緒に楽しくお稽古していただいております。岩波先生、今後とも末永くご指導よろしく願いいたします。



## 高橋先生、いつまでもご壮健でご活躍を！

堀内功一郎 谷奥浩クラス出身、中田英里クラス生徒

1947年生まれの団塊1期生74歳、現役生徒です。中学、高校で吹奏楽部、大学で木管アンサンブルを楽しみました。結婚し、娘が幼稚園の頃からスズキでヴァイオリンを習うようになりました。娘に付き合いヴァイオリンの曲を吹いていたのですが、バッハやヴィヴァルディで追いつけなくなってきました。先生につくことの重要さに気がつき、幸い藤沢の教室にフルート科があり、入会しました。当時の先生は谷奥先生でした。

10年精進して、7巻のドブラー「ハンガリー田園幻想曲」が終了したところで、谷奥先生から夏期学校のマスタークラスへの参加を勧められました。最初の夏期学校では、高橋利夫先生はアメリカ出張中で講師は中川紅子先生でした。腹式呼吸を理解するため、四つん這いになったり仰向けになったり…。谷奥先生はご両親が高齢になられ、実家のある北海道に越され、中田先生が後任で来られました。爾来20数年、ご指導いただいています。

夏期学校への参加は、20数回となりました。始めの頃、会場は才能教育会館やあがたの森だけでしたが、長野県文化会館や近隣の中学校、高等学校、はては信州大学まで会場となりました。夏期学校の楽しみは高橋先生から直接ご指導いただけることでした。あがり症の私は1日目はまともに息も吸えず、音になりませんでした。そんな私にも先生はあきれながらも丁寧にレッスンして下さり、モイーズの刻印のあるフルートにも触らせてもらいました。先生は表現について始終言われていました。内容はわかるのですが、いざ自分で吹いてみると全然先生の言われているように吹けません。さんざん先生にあきれられました。高橋先生が退任後は宮前先生にみていただきましたが、先生はアメリカでいろいろな人に接してきているのか、私のへたくそな演奏に絶対否定的な言葉がありません。自分でテープを聴いてあまりのひどさに愕然としたクヴァンツの卒業曲にも、良い部分しか言及されませんでした。汗顔のいたりです。数年前に高橋先生の喜寿のお祝いに参加させていただきました。先生は私の10歳年上になります。いつまでもご壮健でご活躍ください。私も中田先生の生徒として精進いたします。



# フルート科

## 指導者からの

## メッセージ

フルート科の今を支える

現役の指導者たちが

50周年の思いを語ります。

それぞれの教室情報などは

QRコードをご利用ください。



スズキ・トーンをますます拡げたい。

関東地区 岩波寿美



スズキ・フルートとの出会いは、9歳の時です。高橋利夫先生のクラスを初めて見学した時、「先生の音、なんて美しいの！先生のような音を奏でたい！」という思いから、すぐに入門しました。先生は音への探究心がとても高く、妥協することがありませんでした。厳しさで温かさの中にユーモアがあり、いつも格好良かった。

今は指導者という立場になり、かつて先生がおっしゃっていた言葉一つひとつに重みを感じながら指導にあたっています。また、スズキ・メソッドの大勢の先生方、生徒や保護者の皆さまと出会うことができました。ともに仕事を通じて、たくさん学ばせていただいたこと、レッスンやコンサートを通して、多くの感動を与えられたことに、心から感謝しております。この50年の間にフルートも進化し、U字管が開発され、諸先輩方のご尽力のお陰で、幼児からフルートが習えるようになりました。スズキ・フルートがさらに進化し続け、スズキ・トーンが益々広がっていくことを願っています。

かけがえのない宝物をいただきました。

関東地区 桂綾子



スズキ・メソッドは私の人生になくなくてはならないものです。鈴木鎮一先生そして高橋利夫先生からは多くのことを教えていただきました。モイーズ先生のフルートの奏法はもとより、美しい音色、音楽の歌い方など、演奏やレッスンを進める上で、今でも私の宝物となっております。高橋先生から教えていただいたことを少しでも生徒さんにお伝えできるようにと心がけております。

また、私の研究生時代の音校には、ほぼ毎日鈴木鎮一先生がいらっしゃいました。ユーモアあふれる温厚な鈴木先生からは人生を楽しむこと、そして先生の生き方からは真・善・美を伝えていただいたように思います。鈴木先生の教えを大切に受け継がれた中嶋嶺雄先生や豊田耕児先生から教えていただきましたこと、そして楽器の垣根や国境を越えてのスズキ・メソッドの先生方や生徒さんとの交流も、私の音楽人生の上でかけがえのない宝物となっております。これからも美しい音楽の世界を求めてまいりたいと思います。

「何かが変わっていく」ことを大切に。

甲信地区 植田理恵



私が初めてフルートを手にしたのは、中学1年生でした。音が出たことに喜び、もっともっと上手になりたいと思った時に高橋利夫先生との出会いがありました。まだ生徒になっていなかった私に、先生は甲府教室の発表会へご招待してくださいました。私はその発表会で同じ年頃の少年が、聴いたこともない大曲を、素晴らしく演奏されるのを目の当たりにし「雲の上の人だな…」と思いました。後にその方が宮前文明先生だったと知り、運命を感じました。

高橋先生のお教室へ通うようになり、レッスンのたびに自分の何かが変わっていく、そんな変化が楽しく、また先生の奏でるフルートの音色に魅了され、私はいつしか指導者になる道を歩んで行きました。それから約30年。今、私は高橋先生のレッスンで感じた『何かが変わっていく』ことを生徒の皆さんに感じていただけるような指導者になれているでしょうか。

これからも生徒さんの笑顔とスズキの命ある音を求めていきたいと思っています。

激励の言葉をいつも心に留めています。

甲信地区 嘉納令奈



私のスズキ・フルートとの歩みは大人になってからでした。小学生の頃、学校で催された室内楽団の演奏会でフルートの音に一目惚れ。そのままフルート専攻で進学・卒業。もっと深く幼児教育を学びたい！と思い、国際スズキ・メソッド音楽院へ入学。私はこの時ようやくスズキ・フルートとの歴史を歩み始めたのです。高橋先生のレッスンで音を鍛え直していただき、大家の演奏を耳で感じ、贅沢なかけがえのない時間を過ごしました。

晴れて指導者となった私は、高橋先生から「アイデアをたくさん見つけなさい。ユーモアとウィットに富んだお稽古ができるように。教育が教教にならないように、育てる方が大事なのだからしっかり頼みますよ」と責任の重さを込めた激励の言葉をいただきました。

この言葉をいつも心に留め、「スズキでフルートを続けて良かった」と生徒たちに感じてもらえるよう、これからも指導者として歩んで行きたいと思っています。

先生方の偉大さを改めて感じています。

甲信地区 安間由佳



私が生まれた1971年にスズキ・メソッドフルート科が誕生しました。この記念すべき50周年を機に、フルート科の歴史を後世に残すことの重要性を感じ、記念誌を制作しました。歴史を辿るとモイーズ先生、高橋先生、宮前先生の貴重な記録を目にし、先生方の偉大さを改めて感じる事ができました。

私は13歳の時に他の教室からスズキの教室に移り、指導者になりました。初めて高橋先生にお会いしフルートを吹いた時、出だしの一音を吹いただけで「もういい」と、それ以上吹かせてもらえなかったことを今でもよく思い出します。そこから私の長い長い音のレッスンが始まりました。指導者になった今、あの時の経験、先生のご指導がどれだけ私の糧になっているか、高橋先生には感謝しかありません。

「ただフルートを教えるのではなく、スズキ・メソッドを伝えていくことが、私たちの仕事だ」

この高橋先生の言葉を忘れることなく、伝えていきたいと思っています。

人生が何倍にも広がりました。

関東地区 金井環



高橋先生がモイーズ先生から受けた教えをもとに始まったスズキ・フルート・スクールは、たくさんのお子様たちやフルート学習者に親しまれてきたのだと思います。

フルートには、ヴァイオリンやチェロ、ピアノと同じように、フルートのために作られた魅力的な曲が、たくさんあります。

私自身も6歳からスズキ・メソッドでフルートを始めてから、たくさんのお名曲に触れ、フルートの魅力や音楽の楽しさ、素晴らしさを感じてきました。また、フルートを通じて得た学びや出会いは何にもかえがたく、スズキ・フルート・スクールを通じて私の人生は何倍にも広がったと実感しています。

初めてのお稽古としてスズキ・メソッドを選んできた両親、愛情深く育ててくださった親指導者の中田英里先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからもスズキ・フルート・スクールが未永く続いていくよう、努力を重ねていく所存でございます。

50周年への思いを大切に。

関東地区 中田英里



フルート科創立50周年に際し、たくさんの方々のお陰だと心より感謝申し上げます。約30年前、高橋利夫先生に「スズキの指導者になるには、どうしたら良いですか？」と何の面識もない私がいきなりお電話したにも関わらず、温かく接していただき、その日から私のスズキ・フルートへの道が始まりました。学生時代は高橋先生がご教示くださったことが高尚過ぎて、深い理解がないままに演奏するだけで精一杯でしたが、今は指導していく中で、生徒を通して一つひとつ重要だと分かって行くことに喜びを感じております。

「もっと生徒を増やさなければ」と意気込んできましたが、今、在籍するすべての生徒を信じ、導いて行くことの方が大切なのだと気づきました。指導者になり数年経ち、迷走していた時「高橋先生の音を生徒にしっかりと伝えてね！」と先輩の先生からご助言いただきました。今、できているのか自問自答の毎日ですが、「決して忘れてはならない」と言い聞かせ、それがスズキ・フルートの未来に続くと思えてなりません。

半世紀の時を超える思いでいっぱいです。

関東地区 宮地若菜



笛の音が大好きだった私が高橋利夫先生の門を叩いたのは1965年5月。すでに先生の渡米が決まっていました。ご自宅のレッスン室にはいつも7-8人の受講生が集い、よくカザルスやクライラーのレコードを聴かせていただきました。わずか半年の期間に高い次元の音楽の世界を教えていただいたことが、その後の私の音楽への礎になりました。その年の10月に渡米記念リサイタルをされ、多くの人々に見送られ松本を発った高橋先生は神々しかったことを覚えています。再び先生の下を訪ねた時、初めに手渡されたのはM・モイーズのオープンリールのテープでした。楽譜はなくモイーズのテープを何度も聴いて音をとって、レッスンを受けました。その頃聴いたスズキ・メソッドのお話に大きな感銘を受け、音楽院に入学、指導者認定をいただきました。幼児用U字管フルートを開発し、オブリガートの楽譜を作りました。ここまで続けてこれたのは、多くの先生方に教えていただき支えていただいたおかげと心から感謝しております。

習ってよかったと思われる指導者。

北陸地区 摺出寺敬子



私がスズキ・メソッドを知ったのは、1995年にオーストラリアのシドニーで開催されたパンパシフィック大会に参加したことがきっかけでした。小さな子どもたちが暗譜で、いろいろな曲を上手に演奏している姿に驚き、スズキ・メソッドに興味を持つとともに高橋先生のフルートの音色に魅せられて、2ヵ月後には松本の才能教育音楽学校の入学試験を受けていました。

そしてスズキ・メソッドの指導者となり20年以上経ちました。幼児用U字管フルートとスズキ・メソッドのテキストを使うことにより、3歳からフルートを習うことができます。発表会や夏期学校、クリスマス会やグランドコンサートなど、いろいろな行事があるので生徒さんは楽しみながらフルートを続けています。卒業制度もあるので目標に向かってがんばる意欲も高められます。スズキ・メソッドでフルートを習って良かったと思ってもらえるように、これからも「愛深ければ為すこと多し」の気持ちで教えていきたいです。

今こそスズキ・フルートの良さを伝えたい。

東海地区 佐藤延子



フルート科創立50周年記念のメモリアルイヤーに立ち会えることができ、とても感慨深く思います。高橋先生が50年前に指導曲集を書き上げスズキ・メソッドの仲間フルートを加えてくださったこと、その後軽量U字管フルートがフルート科の指導者により開発され、ヴァイオリンと同様に3歳から無理なく始められるようになったことはフルートという管楽器の特性からも画期的な出来事だったのでないでしょうか。

私がスズキ・フルートを知ったのは19歳頃でしたのでもっと早く出会っていたら…と悔やまれます。でも、だからこそ今スズキ・フルートの良さをより皆に伝えられると思っています。何よりも音づくりを大切にし、スズキの母語教育法にのっとって、耳づくり、繰り返しのお稽古など。「子どもの育て方次第だなぁ」と思うことばかりです。子どもの吸収力の素晴らしさで日々の成長が目に見えて分かります。これからスズキ・フルートが60、70...100年と続いていくことを願います。ぼやぼやしてはいられません。

50年の先を創っていきます。

東海地区 矢島朝子



私は、中学3年生で高橋利夫先生のレッスンを受け始めました。初めてのレッスンで高橋先生は、「あんだ、誕生日はいつだね？」と言われました。そしてお得意の星座占いの話が始まりました。それから、木曜日のレッスンが楽しみな時間になりました。

高橋先生のレッスンでは、作曲家が作品に込めた想いをどう表現するかを大切にしています。そして、音。モイーズ先生の音、それらを私たち指導者にも、子どもたちにも、わかりやすくそして真剣に伝えてくださる。先生にレッスンを受けるとどんな曲もすごく魅力的になってしまいます。

そんな高橋先生がフルート科のこれからを託した宮前先生とともに、私たちは生徒さんたちに伝えていかなければと思います。生徒さんたちのフルートの音が大好きです。みなさんの音に力をもらいながら、50年の先を創っていきます。

スズキ・フルートに関わってくれたすべての方への感謝の気持ちを忘れずに。

# スズキ・フルート 50 周年記念事業

## 1. 50 周年記念ロゴの制作

イラストレーターの片岡樹里さんによる 50 周年記念ロゴを制作。動画投稿をしてくださった方へのプレゼントとして制作した「記念クロス」(右) や、公式サイトで使用しています。



## 2. 先生きていて!フルート動画大募集

現役の生徒さん、OB・OGの皆様が、練習を積み重ねてこられた大好きな曲を演奏した動画を、5月から8月末にかけて募集。投稿された方には、フルート科特別講師の宮前文明先生やフルート科指導者からの丁寧なコメント付きの動画が返送され、とても人気となりました。



## 3. 50 組で繋ぐきらきら星変奏曲

50 周年を記念して、50 組の生徒さんたちによる「きらきら星変奏曲」の演奏で「新たな繋がり」を得ることを目的に、5月から7月にかけて募集。8月開催の夏期学校や YouTube チャンネルで公開され、好評を博しました。



## 4. 夏期学校フルート科・動画集

2021 年 8 月に開催された第 70 回夏期学校。オンラインでの開催でしたが、70 回を記念する内容に溢れていました。その中で、フルート科の出演動画をまとめることができましたので、こちらで紹介いたします。下記の QR コードからご覧いただけます。



上級生による演奏: 2 本のフルートのための協奏曲第 3 楽章 / チマローザ



メヌエット / グルック



花のワルツ / ケーラー



アマリリス / ギス

## 大人のスズキ

初めての方も blanks のある方も  
スズキで音楽を始めましょう♪



特別な経験は必要ありません。事前の見学ができます。  
公式サイトから、お気軽にお問い合わせください。



## Monthly Suzuki



制作: 公益社団法人才能教育研究会 フルード科委員会  
企画・編集: 岩波寿美・桂綾子・宮地若菜・安間由佳  
文章作成: 宮地若菜 翻訳: 宮前文明  
編集・デザイン: 新巳喜男  
2021 年 12 月発行